



がん患者さんの 終末期について

当院では1年間で約40人弱のがん患者さんがご自宅で最期まで過ごされています。がん患者さんがご自宅で最期まで過ごすためには、患者さんの残された生活をなるべく整えたいという思いが強いと思います。在宅医療の最大の課題は、ご本人やご家族と最期に

シを持たれるかもしれないが、実際には、慣れ親しんだご自宅の部屋でご家族、ペットと過ごされたり、タバコを吸ったり、お酒をたしなむなどして最期を迎えたいというご要望があります。在宅で行える医療の差

が、実際に在宅で過ごすことができるように医療的なサポートをすることが大切です。現在日本では、年間約37万人の方々ががんにかかっています。がんの場合、終末期医療においては、病院と在宅で行える医療の差



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

本人やご家族と最期に至る覚悟の確認や心理的ケアを行うよう努めています。当院では複数の医師、看護師でチームを組んで診療を行なっていますが、この

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00
■定休日 : 土日 (祝日は診療)
■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック